

[2019.7.9]

問 115 の選択肢②（誤答）についての解説の一部に誤りがありましたので、お詫びして訂正させていただきます。

**【問 115】**

（訂正前）

被験者の年齢、性別など、また目的に応じて 40 枚の図版から 20 枚を選び呈示する。19 枚目に白紙の図版を入れる場合が多い。変法もある。

（訂正後）

31 枚の図版（1 枚の図版は白紙）から被検者の属性（性別、年齢）と順番を考慮して選択・配列された「20 枚法」が最もよく採用される。このうち、属性を問わない共通図版が 11 枚（白紙図版を含む）ある。

---

[2019.7.3]

問 56 の選択肢②（誤答）についての解説の一部と重要事項の記載に誤りがあることが判明しましたので、お詫びして訂正させていただきます。

**【問 56】**

（訂正前）

刑事施設からの仮釈放の許可は刑務所長の決定による。

（訂正後）

刑事施設からの仮釈放は地方更生保護委員会による審理・決定を経て、許可される。

（訂正前）

本問は少年事件の処分を問う問題である。

（訂正後）

以上の一文を削除させていただきます。

---

[2019.4.20]

厚生労働省の「第 1 回公認心理師試験（平成 30 年 9 月 9 日実施分）に係る試験問題の取扱いの訂正とお詫び」([https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_04311.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_04311.html) 2019 年 4 月 3 日付) 発表を受けての小社刊『第 1 回公認心理師試験 問題と解説』著者からのコメント

## 【問 20】

2018年11月30日付の厚生労働省の訂正発表で、③も④も正答になったことを受けて解説を行いました。④を○として解説すべきところ、×を○に訂正できておりませんでした。お詫びして訂正させていただきます。

## 【問 131】

2019年4月3日付の厚生労働省の追加訂正発表で、選択肢が不明確であるために正解を定めないことになったことを受けて解説を加筆訂正させていただきます。

### ③について

成書に関する記載部分を、以下のように訂正させていただきます。

(訂正前)

…しばしばみられるが必発ではない。成書には、「歩行障害や運動麻痺、言語障害、排尿障害が早期にみられる」との記載があるので本選択肢を正答とすることが妥当である。ちなみに歩行障害と尿失禁、認知機能低下は…

(訂正後)

…しばしばみられるが必発ではない。しかし一方で成書には、「歩行障害や運動麻痺、言語障害、排尿障害が早期にみられる」との記載がある。ちなみに歩行障害と尿失禁、認知機能低下は…

### ④について

最新の各種情報を踏まえ、以下のように追加記載させていただきます。

…この2疾患で原因の約3分の2を占める。

(この後ろに以下を追加挿入)

2017年1月厚生労働省が関係府省庁と共同で策定した「認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)」は認知症高齢者に焦点を当ててまとめられたものであるが、その中で若年性認知症施策の強化を挙げている。若年性認知症の原因疾患の第1位はAlzheimer型認知症であるとの少なからずの報告が認知症を専門とする医療機関から発信されている。なお、日本認知症学会をはじめ、国立長寿医療研究センターや東京都健康長寿医療センター研究所等が調査研究を進めており、正式なデータが近く発表されると予想される。